



就活生のための 30の名言

〜就職活動中に考えておきたいこと〜

【はじめに】

僕が就職活動をしたのは1993年のことです。バブル崩壊が1991年でした。僕らの一つ上の先輩あたりから就職活動の空気が一変したのです。バブル時代にはいわゆる「青田買い」「売り手市場」と呼ばれる恵まれた(?)時代でした。それが年々厳しい状況となっていくのです。

その後、一時的な「ITバブル」「ベンチャーバブル」といった好景気もありましたが、この20年ほど学生達には「就職氷河期」といっていい状況が続いています。

また僕らと同年代で働いている人も「大競争時代」「成果主義」「雇用流動化」「下流社会」「ワーキングプア」といった厳しい生活環境の中で働いています。職場のプレッシャーやストレスによりうつ病などの精神疾患におちいる人も増加しています。

この20年あまりの間、僕は就職→資格取得→転職→独立起業→事業清算→フリーター→独立と自分でも呆れるくらい様々な経験をしてきました。結婚もし子供3人も授かりました。「自分とは何か」「天職とは何か」「自分にできる事は何か」そんなことを真剣に考えながら一步一步進んできました。

この冊子は、そんな中で出逢った仕事に関する言葉たちの一部をまとめたものです。就活生のために無料電子冊子という形で届けたいと思います。少しでも若い人たちの役に立てれば嬉しく思います。

編者発行人：島田学

注意して見まわしてみると、私は多数の青年たちが同じような危機に見舞われていることを発見した。

一つの反自然は、確実に第二の反自然を強制する。

あまりに多くのものが
いまだその機が熟さないうちに身のふり方をきめ、
その後はもはや放りだせなくなった重荷のもとで
衰弱してゆく運命にある。

◆ニーチェ「この人を見よ - いかにしてひとは自己自身となるか」

わが輩はとくに職業を選定せんとする青年に
自己の動機を回顧せんことを勧む。

先人の言に曰く、「凡そ人事を区処する、およ当に先ずその結局を
おもんぼか慮り、しか而して後に手を下すべし、かじ楫無きの舟を行る勿れ、
まと的無きの箭を發する勿れ」と。

して楫を執るとき、と箭を放つときは心静かに落ちつけて、
よくよくおのれの力先きの方向に留意するを要する。

◆新渡戸稲造「自警録」

だれでも、青春の日、
人生にはじめてまともにぶつかる瞬間がある。

そのとき、ふと浮かびあがってくる異様な映像に戦慄^{せんりつ}する。
それが自分自身の姿であることに驚くのだ。

それはいわゆる性格とか、人格とかいうような固定したもの
ではない。いわば自分自身の運命といたたらいいだろうか。
自分自身との対面。考えようによっては、きわめて不幸な、
意識の瞬間だが。

そのとき人は己れを決意しなければならない。
人間誕生の一瞬である。
それからは生涯を通じて、決意した自分に絶望的に賭けるのだ。

◆岡本太郎

若者は、自分を人と違ったものにする個性の種を一つでも探し出して、全力を尽くして育て上げることだ。

社会と学校はこの種を奪い、誰も彼も一まとめに同じ鑄型いがたに押し込めようとするだろう。だが、この種を失ってはいけない。

それは自分の価値を主張するための、ただ一つの権利だから。

◆ヘンリー・フォード

「ああ、ここにおれの進むべき道があった！
ようやく掘り当てた！」

こういう感投詞を心の底から叫び出される時、
あなたがたははじめて心を安んずる事ができるのでしょう。

◆夏目漱石

あなたが今何の職業で生計を立てているか、私には興味ない。

私が興味あるのは、

あなたが切望しているもの、あなたの心が熱望する夢に
立ち向かう勇気があるかどうかである。

◆オリア・マウンテン・ドリーマー

君も大人になってゆくと、よい心がけをもっていながら、
弱いばかりにその心がけを生かし切れないでいる、
小さな善人がどんなに多いかということ、
おいおいに知って来るだろう。

世間には、悪い人ではないが、
弱いばかりに、自分にも他人にも余計な不幸を招いている人
が決して少なくない。

人類の進歩と結びつかない英雄的な精神も空しいが、
英雄的な気魄きはくを欠いた善良さも、
同じように空しいことが多いのだ。

君も、いまに、きっと思いあたることがあるだろう。

◆吉野源三郎「君たちはどう生きるか」

学問なり技術があるということは立派なことにはちがいないが、それを人間のために有効に使って初めて、すぐれた人間だということができるのだと思う。

何よりも大切なのは人を愛する心ではないだろうか。

◆本田宗一郎

もともと学校は学生を商品として造り、
売り出すところだとは考えないから、

職につきたい学生は、自分自身の価値で、自分の力で、
そのほうの口を捜せと言ってある。

◆山本有三「学生の欠点」

今日、民衆の中に何が一番欠けているか。

自分を信じ、人を信じ、自分の仕事を信じ、
自分の今日の生活を信じていく
というような信念が非常に弱いと思う。

◆吉川英治

男子が成人し、職業を得、親類、友人の援助から離れ、
独立した生活がともかくできるようになった。
他人への義理も欠かさず、なんとか家を建て、望み通りの結婚
をし子供に恵まれ、一通りの教育もつけ、不時の出費に備え
貯金もできた。「自分はこれで独立の生活を得たと満足する」

私はこういう人を立派だとは思わない。

この人は単に蟻ありと同様のことをしただけで蟻以上のもの
ではない。これだけの結果で万物の霊長たる人間としての
真の目的を達成したとは私には思えない。

◆福澤諭吉

仕事は自分で見つけるべきものだ。
また職業は自分でこしらえるべきものだ。

その心掛けさえあれば、仕事職業は無限にある。

◆豊田佐吉

選択肢を前にした若者が答えるべき問題は、
正確には、何をしたらよいかではなく、
自分を使って何をしたいかである。

多元社会は一人ひとりの人間に対し、
自分は何か、何をしたらよいか、自分を使って何をしたいか
を問うことを求める。

この問いは就職上の選択の問題に見えながら、
実は自らの実存にかかわる問題である。

◆ドラッカー「断絶の時代」

自分が本当に好きなものを見つけて下さい。
見つかったら、その大切なもののために努力しなさい。
君たちは、努力したい何かを持っているはず。

きっとそれは、
君たちの心のこもった立派な仕事になるでしょう。

◆黒澤明

人間の第一職分は、自家の天職を探求するのが第一で、
其^{その}天職をどこまでも遂行するのが第二の本分であろう。

◆徳富蘆花「思い出の記」

汝は生きるために食べるべきで、
食べるために生きるべきではない。

◆キケロ

職業は生活の方便ではない。生活の目的である。
働くということが、人生の価値であり、人生の歓喜であり、
人生の幸福なのである。

◆ロダン

人間はただ精一杯生きていけばよいというものではない。
いかなる目標に向かって。精一杯に生きるべきか
を知らねばならないのだ。

与えられた仕事を、国家のために忠実にするというだけなら、
あのガス室の大量殺人の仕事を持たされても、
黙々と従うだけのことになりかねないのだ。

◆三浦綾子

人間は他人を自分のために働かせるためではなく、
自分が他人のために働くために生きているのである。
働く者は食物を与えられるだろう。

◆トルストイ「私の信仰」

働くということは、
「はた」を「らく」にする（傍を楽にする）ことだ。

◆盛田昭夫（※江戸時代の語呂合わせから）

与えることを学ばねばなりません。
でも、与えることを義務と考えるのではなく、
与えたいという願いとすることが大切です。

◆マザー・テレサ「愛と祈りのことば」

つねに行為の動機のみを重んじて、帰着する結果を思うな。
報酬への期待を行為のバネとする人々の一人となるな。

◆ベートーベン

仕事は目的である。

仕事をはっきりした目的とやってやっついているやつにとって、
結果はたいした問題ではない。

◆志賀直哉「青臭帖」

わたしは無駄にこの世に生きてきたのではない。
また人間として生きてきたからには
無駄にこの世を過したくはない。

私がこの世に生きてきたのは
私でなければできない仕事があるから一つ
この世にあるからなのだ。
それが社会的に高いか低いかなんかそんなことは問題ではない。

その仕事は何であるかを見つけ、
そのために精一杯の魂を打ち込んでゆくところに
人間として生きてきた意義と生きてゆくよろこびがあるのだ。

◆相田みつを

我々が職を選ぶにあたって、その指針とならねばならないのは人類の福祉と我々自身の完成である。この二つの関心は相互に敵対し相互につぶし合うに違いないなどと思っはいけない。

そうではなく、
人間は自己の完成を、ただ彼が世の中の完成、世の中の福祉のために働く場合にのみ成し遂げ得るのであって、
人間はもともとそういうふうに行っているものなのである。

◆カール・マルクス (17歳のとき)

「職業の選択に際しての青年の考察」

他人を喜ばすことに生きがいを感じれば、
それは天職へと転じていきます。

つまり、他人を喜ばすこと自体が一つの立派な才能なのです。

◆ジョセフ・マーフィー

今日天職という様な言葉がもはや陳腐に聞こえるのは、
今日では、様々な事情から、人が自分の一切の喜びや悲しみを
託して悔いぬ職業を見付けることが大変困難になったので、
多くの人が職業のなかに人間の目的を発見する事を
諦めてしまったからです。

◆小林秀雄

自分には、自分に与えられた道がある。
広い時もある。せまい時もある。
のぼりもあれば、くだりもある。
思案にあまる時もあるろう。

しかし、心を定め、希望を持って歩むならば、
必ず道は開けてくる。

深い喜びも、そこから生まれてくる。

◆松下幸之助

願はくは 心を^{つく}竭し 力を尽くし
^{うん}蓋を^う発して 惜しむなかれ

◆吉田松陰

【解説】心を竭し力を尽くし、
これまで蓄えた力を発揮し、出し惜しむことのないことを願う。

貧^{いへど}すと雖も浮雲の富を求むる勿^{なか}れ
窮^{きゆう}すと雖も丈夫^{すまらお}の志を屈する勿^{なか}れ
矯^{きようきよう}々龍の如く沈々虎の如し
身を潜め名を隠し当^{まさ}に一陽来復の時を待つべし

◆坂本龍馬

【編者プロフィール】

島田 学 (manabu shimada)

1970年東京生まれ、中央大学卒業後、コンサルティング会社などを経て、スパ人財開発研究所代表。全国の企業や団体の研修講師を数多く勤め、人材育成、能力開発、自己実現支援などを行っている。また、“子供たちの次代により豊かな未来社会をプレゼントする”を人生理念とし、青少年育成活動にも力を注いでいる。メールマガジン“青年のための名言”の発行人である。

ブログ； <http://gakusix.cocolog-nifty.com/ikirukotoba/>

「生きる言葉」

メルマガ； <http://www.mag2.com/m/0000163616.html>

「青年のための名言」

e-mail ； gaku.shimada@mbc.nifty.com

☆☆ 「青年のための名言」ご案内 ☆☆

次代を築いていく青年たちに向けて
古今東西の偉人たちの名言を1400以上編纂。

【青年へ贈る】【学ぶこと】【働くこと】【成長していく】
【成果を生み出す】【強く生きる】【幸福に生きる】【人間とは】
【自分とは】【志を立てる】 全十章

本冊子は電子書籍「青年のための名言」からの抜粋となっ
ています。是非こちらもお読みいただければ嬉しいです。

詳しくは下記をご覧ください。

◆ブックログ；パプー版

<http://p.booklog.jp/book/32137>

◆wook版

<http://wook.jp/book/detail.html?id=214020>

